



皆 さん、こんにちは。加悦中学校ALTのダークです。今回は、夏の夜にぴったりの不気味なおぼけの話を書きます。

私はおぼけや怪物の話が好きで、雪女や口裂け女、河童や山姥など、日本の怪談に興味があります。最近、ある電話ボックスにまつわる怪談を聞きました。そこでは深夜になると、微笑んだ妖怪が出るそうです。日本に住んでみて、日本に多くの怪談が生まれた理由が少しずつ分かってきました。幽霊を意識しながら夜道を歩くと背筋は寒いような気がするし、明かりが

少ない路地や廃屋は怪談好きの想像力をかき立てます。

そんな私が興味を持っている家が1軒あります。その家は、現在人が住んでいない古い日本家屋で草に覆われており、1階には黄ばんだ新聞紙が見え、2階の窓はすべてカーテンがかけられています。いつもその家を見るとき、その窓から誰かがこちらを見ているような気がするのです。これは私の想像なのでしょうか。

私たち南アフリカの人は怪談がとても好きで、たくさん人の怪談を知っています。最も有名なのは「フライング・ダッチマン」

の話です。16世紀、海が荒れることで有名なケープタウン周辺の海を一周しようとしていたオランダ貨物船の船長に、悪魔がこの世の終わりで航海するよう呪いをかけました。彼は7年に1度だけ陸に上がることができるとは、呪いにかけた後、荒天のときだけ空飛ぶオランダ人を見かける人が増え始めたといわれています。ある人は、奇妙な赤い光に包まれた亡霊船だと言ったそうです。

日本の話も南アフリカの話もそうですが、このような不気味な話が身近にあると思うと、不思議な気持ちになりますね。

POINT

英語でおぼけは「ghost (ゴースト)」や「phantom (ファントム) / 亡霊」を思い浮かべることが多いのではないのでしょうか。今回、ダーク先生は「spectre / 妖怪」という単語を使用されました。「すべくとれ...？」この単語を見てすぐ「スペクター」と読めましたか？ 実は、「specter」と書くこともできるのです。その他にも、「theatre = theater (シアター) / 劇場」や「color = colour (カラー) / 色」、「catalog = catalogue (カタログ) / 目録」のように、同じ意味・同じ発音でも国や地域によってスペル(つづり)が変わる単語がたくさんあります。

懐かしい日本の姿 ~ 昭和を振り返る ~

『もう二度と見ることができない幻の名作レトロ建築』

河合敦 / あすなる書房



明治から昭和初期にかけて日本・中国・韓国で建設され、現在までに再開発や災害などの理由で取り壊されてしまった43棟の名建築の在りし日の姿を写真で残した1冊。もう実物を訪れることは叶いませんが、ひと時タイムトリップしてみたいかがでしょうか。

『旅の絵本Ⅷ(8)』

安野光雅 / 福音館書店



世界各国の風景を緻密ながらも優しい筆づかいで描く「旅の絵本」シリーズの8巻目は、作者の子ども時代である昭和初期の日本が舞台。作者のふるさと津和野や小豆島、伊根の舟屋といった、自然豊かな町並みと人々の暮らしが絵本を通して目の前に広がる1冊。

『オリンピックの身代金』

奥田英朗 / 角川書店



60年前に行われた最初の東京オリンピックがもしもテロに狙われていたら？ 警察を狙った爆破事件と同時に「東京オリンピックを妨害する」という脅迫状が届きます。歴史的イベントをかけた刑事たちとテロリストの攻防を描いた1冊。

音読にチャレンジしてみませんか？ ~ 「音読の会」の開催 ~

声を出して朗読することで、脳が活性化されると言われています。みんなで同じ本を音読し、健康増進やコミュニケーションにつながることを目的に「音読の会」を開催します。年齢制限はありませんので、お気軽にご参加ください。

- 日時 9月21日(土) 午後2時30分~ ※ 約1時間程度(休憩あり) ※ 参加無料
- 会場 中央公民館
- 定員 10人(先着順・申込制 / 野田川分室 ☎ 43-0087)



おはなし会の開催

【野田川分室】8月17日(土) 【本館】9月7日(土)
※ 両日とも午前10時30分~

- 問い合わせ先 / 与謝野町立図書館 ☎ 46-2451 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087
- 開館時間 / 午前10時~午後6時 ● 休館日 / 毎週月曜(本館・加悦分室)、毎週火曜(野田川分室)、毎月最終木曜(共通)

あなたの勇気が大切な命を守ります

~ 虐待を「見たとき」「聞いたとき」は通報を ~

児童・高齢者・障害者の虐待に気づいた方には通報義務があります。虐待を見たら、聞いたら「よさの虐待ほっとライン(☎ 43-9033)」へ。

